

KES エコロジカルネットワーク参加団体の皆様

希少植物の冬季の管理について

KES エコロジカルネットワーク事務局

KES エコロジカルネットワークプロジェクトは今年で4年目を迎えます。全国的にもまれな取組みを継続発展させていきたいと考えております。本年もどうぞよろしく願いいたします。

フタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、オミナエシ、カワラナデシコは、地上部の大半が枯れているかと思えます。しかし、根はしっかりと息づいています。本格的な冬から春にかけての栽培の注意点などをお伝えします。

(栽培実習時に配布した育て方の資料と一部重複します。)

■フタバアオイ

晩秋から冬にかけては、地上部の葉がすっかり枯れ、地上部はわずかな茎だけになります。しかし、地中の根（地下茎）は生きています。

冬の間、鉢は、軒下などの明るい場所に置きます。屋内では、暖房があまり効かない場所が良いでしょう。

土を乾燥させすぎないように、3～5日程度に1度は水やりをしましょう。

【株分け】 3月ころ、まださほど暖かにならないうちに、株分けもできます。細い根を切らないように、ていねいに掘り出し、新芽を含む太い地下茎の節ごと（7～8センチ程度）に切り分け、土に寝かして挿して植え付けます。根、地下茎は土の浅い部分で伸びますので、鉢は、浅いもので良いでしょう。

【3～4月頃】 新芽は前年の11～12月ころに準備され、膨らんできています。春先になると地上部も活動を始めます。春先の光はたっぷり浴びせてください。2枚で対になった葉が開き始めると、4月頃に、二又の葉柄の基部から、釣鐘型の小さな赤紫色の花が咲きます。

日差しが強くなってきたら、できるだけ直射日光は午前中だけにし、初夏に向けてさらに強くなってきたら半日陰に置くようにします。

■フジバカマ

地上部はすっかり枯れていると思えます。もしまだ地上部を残されている場合には地上から10センチくらいで、茎を刈り込んでください。

真冬は、霜や凍結に注意する必要があります。フジバカマは、寒さに比較的弱く、京都の冬の寒さでは、全ての株が冬越しできるとは限りません。

軒下のスペースがあれば、軒下に置いて霜を避けてください。

また、軒下でなくとも、根元に、土、落葉堆肥、バーク堆肥などを数センチ盛ったり、わら、古ゴザ、寒冷紗を掛けるなどして根を寒さから保護すると、冬越しの可能性が高まります。古ゴザなど、雨水を届さない素材材質のもので霜よけをする場合は、定期的な水やりを忘れないようにし、暖かくなってきたら早めに外しましょう。

鉢への水やりは、乾燥させすぎないように、数日に1度は行いましょう。できるだけ日中の比較的温かい時間帯に水をやってください。地植えの場合は、よほど乾燥しない限り、水やりは気にする必要はありません。

早春になったら、いまある茎の脇から、新芽が出てきます。少しずつ水やりの間隔を狭めてください。



霜よけの例。バーク堆肥を盛った鉢(手前)、寒冷紗をかぶせた鉢(後ろ)

■ヒオウギ

ヒオウギは、冬にかけて、茎やほとんどの葉が枯れていきます。冬季は、乾燥にも寒さにも強く、あまり手はかかりません。真冬は、数日に1度、水をやれば十分で、寒さ対策は特に必要ありません。

【種子まき】ヒオウギの古代での呼び方は「ぬばたま（射干玉）」「うばたま（烏羽玉）」ですが、これは、漆黒の玉のような種子のことを指し、夜の闇の深さや女性の髪などに係る枕詞として使われています。

種子まきは、秋に種子を採ってすぐに土にまく「取りまき」が最も発芽しやすいですが、春先にまくこともできます。ただし、表皮が硬く発芽しにくいので、写真のように、ザルなどにこすりつけて、皮を向くか、やすりなどで一部の皮を削り取ると、発芽しやすくなります（発芽処理）。



春先に種子を撒くと、数か月後に芽を出します。芽を出して1年目の生長はゆっくりで、2～3年目以降に花が咲きます。

■キクタニギク

キクタニギクは、晩秋から、長ければ初冬まで咲きます。いまは地上部はほとんど枯れ上っているかと思いますが、まだ地上部を残している場合には、地上数センチメートルで茎を刈り取ってください。

寒さ・霜には比較的強く、鉢植えのまま屋外に置いても、大半は冬越しします。できれば、根のまわりに増し土したり、わらを掛けるなどすると、さらに冬越ししやすくなります。

冬季は、水やりを控えます。しかし、乾燥させすぎない程度に、数日に1度は、日中の比較的温かい時間帯に水をやってください。早春になったら、少しずつ水やりの頻度を多くしてください。

【植替え】 2015年度から育てられている参加団体の3年目を迎えた株は、根が鉢いっぱい詰まっています。春に植え替えを行うと、元気になりますので、植替えをお勧めします。方法としては、3月中旬に株の古土や根の枯れた部分を取りのぞいて、新しい土に植えます。4月に入ると、前年の株の脇から、新芽が出てきます。

植え替え時に、冬至芽（とうじめ。真冬の間準備されている新芽）が出ていれば、株分けしておく勢いの良い株になります。ただし、冬至芽から育てる場合は、背が高くなりすぎるので、夏（7月ごろ）に切戻しを行ってください。

■オミナエシ

オミナエシの株は、冬に地上部が枯れて、ロゼット（根出葉）となります。枯れた地上部はカットして、春に芽が出るのを待ちましょう。冬でも乾燥させすぎない程度に、数日に1度は水をやります。

【植替え】 鉢植えの場合は、鉢の中が根で一杯になり根詰まりを起こすことがあります。できれば、毎年春先（3月頃）に植え替えます。

鉢から抜いた株は、根の先を3分の1程切り詰めてから、新しい用土を敷いて植え替えます。根を切り詰めるのは、水や肥料をよく吸う新しい根の発生を促すためです。

大きな株では、地下茎が伸びて、新たな芽が準備されていることがあります。その場合は、新たな芽を大事にして植替え、一回り大きな鉢に植え替えましょう。

■カワラナデシコ

冬に地上部はほとんど枯れますが、根は生きています。寒さにも比較的強いのですが、鉢植えの場合は、なるべく霜がかからない場所に移動します。

冬でも乾燥させすぎない程度に、数日に1度は水をやります。

大きな鉢植えの場合は、根づまりを起こしやすいので、できれば春先か花後の秋に、古い根を一部切り、新しい用土に植え替えると元気になります。

春先から初夏にかけては、生長を促すため、月に1回程度の置き肥をします。

【挿し芽】 殖やしたい場合、花後の秋（京都では9月～10月）に、取りまき（採ったばかりの種子を土にまくこと）することもできますが、挿し芽も比較的容易です。

挿し芽の適期は4月～6月頃です。花穂のついていない芽を切りとり、水揚げをしてから、赤玉土などの用土に挿します。挿してから1週間程度、半日陰で水を切らさないようにし、発根するのを待ち、徐々に明るい場所に移します。

★緑化協会「花とみどりの相談所」もご利用ください。

水曜日と土曜日の午前 10 時～12 時、午後 1 時～4 時に面談または電話で受けられる園芸相談を行っております（無料）。ぜひご利用ください。

【直通電話】 075-561-1980

（面談の場合は、梅小路公園「緑の館」2階に直接お越しください。）

（公財）京都市都市緑化協会 企画総務課 佐藤、伊藤
〒605-0071 東山区円山町 463
電話 075-561-1350 FAX 075-561-1675
協会 HP <http://www.kyoto-ga.jp/>